



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

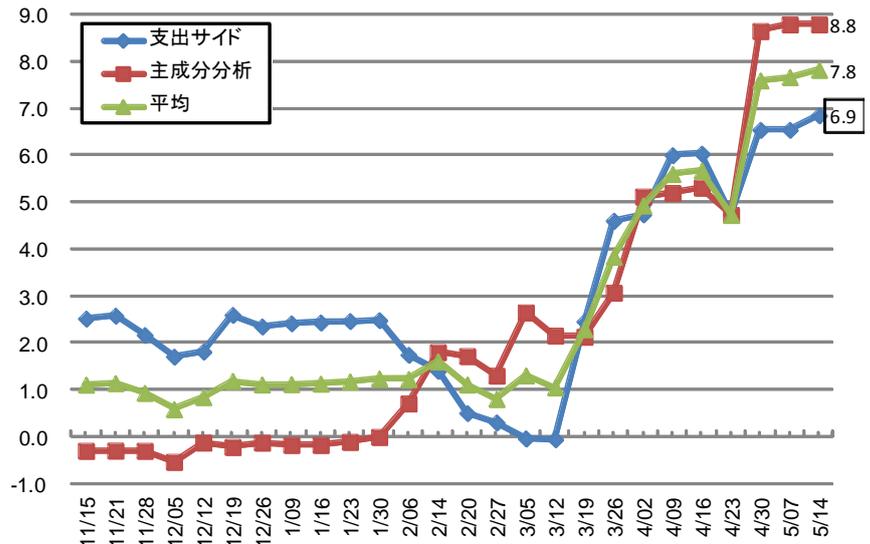
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.co.jp

日本経済(週次)予測(2012年5月14日)

ポイント

- ▶今週の CQM は、1-3 月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+6.9%と予測。1 次速報値が 17 日に発表されるため、今回が最終予測となる。
- ▶3 月の消費総合指数は前月比+0.2%上昇し 2 ヶ月ぶりのプラス。この結果、1-3 月期の同指数は前期比+0.8%上昇。実質民間最終消費支出も同程度の高め伸びが期待できる。
- ▶4 月の景気ウォッチャー調査によると、街角の景況感を示す現状判断 DI は前月比 0.9 ポイント低下し、3 ヶ月ぶりの悪化となった。乗用車新車販売台数が前月比減少したことが現況判断を押し下げたようだ。4-6 月期の民間消費は減速しそうだ。
- ▶3 月の経常収支黒字は前月比-8.3%縮小したが、1-3 月期の経常黒字は前期比+5.9%と 2 期ぶりのプラスを記録した。この結果、1-3 月期の純輸出は GDP 成長率を押し上げたようである。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q1 (%、前期比年率換算)



<1-3 月期実質 GDP(1 次速報値)の CQM 最終予測は 6.0%超の高成長>

先週(5/7-5/11)は、4 月の景気ウォッチャー調査、3 月の消費総合指数、景気動向指数及び国際収支状況が更新された。これらのデータは、民間最終消費支出、純輸出の予測値に影響を及ぼす。

民間最終消費支出の総合的な指標である消費総合指数は、3 月に前月比+0.2%上昇し 2 ヶ月ぶりのプラスとなった。この結果、1-3 月期の消費総合指数は前期比+0.8%上昇し、4 期連続のプラスを記録。伸び率は前期(+0.4%)より加速した。好調な乗用車新車販売を反映して耐久消費財が民間最終消費支出を押し上げたようだ。

4 月の景気ウォッチャー調査によると、街角の景況感を示す現状判断 DI は前月比 0.9 ポイント低下し、3 ヶ月ぶりの悪化となった。4 月の乗用車新車販売台数が前月比減少したことが現況判断を押し下げたようだ。

3 月の経常収支(季節調整値)は前月比-8.3%縮小し 7,855 億円の黒字となった。この結果、1-3 月期の経常収支は 1.7805 兆円の黒字となり、前期比+5.9%と 2 期ぶりのプラスを記録した。1-3 月期の純輸出は GDP 成長率を押し上げたようである。

今週(5/14)の CQM(支出サイド)は、1-3 月期の実質 GDP 成長率を、内需が引き続き拡大し、純輸出は反転拡大するため前期比+1.7%、同年率+6.9%と予測する。先週の予測(+6.5%)から上方修正された。5 月 17 日に 1-3 月期 GDP1 次速報値が発表される。このため、今週の予測が同期の最終予測となる。ちなみに、民間シンクタンク 8 社の平均予測(5 月 10 日)は+3.3%となっており、我々の予測はかなり高めとなっている。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550